（様式第３号）

令和４年８月１２日

議員視察報告書

赤穂市議会
　議長　山田　昌弘　様

派遣議員氏名　　前田　尚志

下記のとおり、研修会に参加しましたので、報告します。

記

１　実施日　　令和４年７月２９日（金）（１日間）

２　開催場所及び講演内容（詳細については別紙のとおり）

大阪府大阪市東淀川区東中島１－１８－２２　丸ビル別館

地方議員研究会主催研修会

決算カード３「財政収支の見方」

決算カード４「財政指標の見方」

講師：森　裕之　氏　　立命館大学 政策科学部教授

別　紙

講演会名　　地方議員研究会主催研修会

７月２９日（金）１０：００～１２：３０

決算カード３「財政収支の見方」

７月２９日（金）１４：００～１６：３０

決算カード４「財政指標の見方」

講師：森　裕之　氏　　立命館大学 政策科学部教授

【目　的】

決算カードに書かれた数字には自治体の財政状況等に関する多くの情報が含まれており、それらを読み解くことができれば地方議員として今後の自治体の財政状況等への理解もさらに深まると考えるため参加した。

【講演会内容】

決算カード３「財政収支の見方」

財政の持続可能性を保つためには、歳入が歳出を上回る赤字の状態にならないようにしなければならないが、財政にとって黒字が大きいことはよくない。自治体の財政運営の目的は「利益を上げる」ことではなく、黒字が多ければその分を住民に還元することが必要となる。しかしながら、黒字分を住民サービスとして支出するか、将来に備えて基金に積み立てるかを判断するのは政治の役割である。

自治体の黒字には普通の黒字のケースと基金を取り崩したことによる黒字のケースがある。基金の取り崩しが続くと財政破綻を来すことになる。

財政破綻の足音を察知するには、実質単年度収支の赤字額が大きくそれが複数年にわたって続いていないか、財政調整基金等の残高が減っていく傾向にないか、一般財源が増えない一方で人件費、扶助費、公債費などの義務的な経費の負担が増加する傾向にないか、これらの傾向がみられる場合には、歳出を見直すための行政改革が必要である。歳入を増やして財政再建を行った事例はない。歳出を削ることが重要である。

決算カード４「財政指標の見方」

財政力指数は基準財政収入額（税収の７５％）を基準財政需要額で割ることにより算出されるが、基準財政需要額は自治体の規模等によって決まるため、財政力指数は税収力の大きさを表すものとなる。

経常収支比率は最も基本的な指標で、経常収支比率が高いほど財政が硬直化（余裕がない）しており、公共施設やインフラの整備などの建設事業へ回すための財源が確保できなくなる。経常収支比率の引き下げは住民サービスの削減を意味するため、それが妥当となるためには、浮いた財源によって新たに実施される住民サービスの便益がより大きくならなければならない。

平成１８年の夕張市の財政破綻をうけて、国が自治体の財政を厳しく統制するため、かつては実質赤字比率の１指標から実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の４指標に増やした。

財政の健全性をみるポイントは、実質収支と単年度実質収支の黒字・赤字、経常収支比率の高さとその内容、健全化判断比率、財政調整基金の相対的大きさである。例えば、単年度実質収支の赤字が続いているようだと財政調整基金を取り崩している状態であり、財政破綻が近づいているといえる。

【所　感】

決算カードについては、これまで内容を個別にまた詳細に検討したことがなく、今回の研修会で、内容について詳細にまた系統立てて説明を受けたことは、大変参考になった。

自治体の財政状況等について議員に課せられた責務や果たすべき役割など、今後ともさらに研鑽努力し、様々な面で今回の研修会で得た知識を反映させていきたい。

【講師名】

森　裕之　氏　　立命館大学 政策科学部教授